

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500191		
法人名	特定非営利活動法人 ロータス会		
事業所名	グループホーム延寿園(延ユニット)		
所在地	余市郡余市町黒川町12丁目3番ロータスビル		
自己評価作成日	平成 28 年2月9日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172500191-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成28年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念の「家庭的で、経済的負担の少ないグループホームにする。」「穏やかで楽しい尊厳のある生活を保障する。」「その人らしい、当たり前の生活を保障する。」を基に入居者様に楽しく1日を終われる様な家庭的な共同生活が出来る様に常に一人、一人のケアプランに沿った介護をチームケアで取り組み、施設のマンションの屋上を活用陽射を浴びながら体操、ジギスカンなども行い地域の方に気軽に声を掛けてもらえる様な、近隣の新鮮な食材を美味しく利用出来る利点を活かして楽しく生活出来るサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR余市駅に近く、大型商店などがあり生活の便に恵まれた環境にある。鉄筋コンクリート造り3階建ての1・2階がグループホームで、1階にはサービスが併設され、3階には高齢者マンションがあり、行事、災害対策などで連携している。「家庭的で、経済的負担の少ないグループホーム」を理念に掲げ、職員は明るく親切に利用者へ接し、常に利用者が主役で自己決定を基本とし、意向を聞くように心がけ、一人ひとりのペースに合わせて支援している。居間兼食堂は家庭的な雰囲気、季節に合わせ利用者や職員で作った、雛祭り、アジサイなどの貼り絵を飾り、利用者は体操、計算問題など心身の状況に応じたレクリエーションをして五感に刺激を与え、テレビを見たり、本を読んだり、会話をするなどして思い思いに過ごしている。地域との交流も盛んで、ソーラン祭り、盆踊りなどの行事に参加して交流している。敬老会などにはボランティアが来訪して踊り、ゲームなどで交流し、介護職員初任者研修生受け入れ、介護教室を開催して地域に貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様全員の意思尊重、尊厳を保障する為、3項目の理念の共有にミーティング時声を出し音読の共有など行っています。	「家庭的で負担の少ない」「穏やかで、楽しい尊厳のある生活」「その人らしい、当たり前の生活」を事業所理念として、毎日ミーティングで唱和し職員で共有して日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人共催の盆踊りを代表者の寺院境内で開催し、地域住民、職員が踊ったり、出店をたのしめます。地域老人会の介護講習会、地元高校生の見学、研修の受け入れ、又職員講師となり高校にてかけたりもしました。	散歩時の挨拶、ソーラン祭り、盆踊りなどの行事に参加して交流している。ボランティアが来訪してゲームなどで交流し、介護職員初任者研修生受け入れ、介護教室を開催して地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元町内会の老人クラブ向けに介護関連の講習会を毎年開催している、認知症や介護関連の活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で地域4名家族2名町職員をメンバーにして、外部評価結果公表、行事、研修の参加報告、入居者の事例報告、委員の方々の意見を伺ってサービス向上に努めている。	家族、地域住民、町職員などが参加して年6回開催している。利用者の状況、行事、事故報告などを行い、意見や助言を得てサービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護福祉課の担当者に運営推進委員会議の出席して頂き意見を伺っている、サービスに関して疑問や積極的助言や、介護保険改正時意見や情報を頂いている。	市担当者には、利用者の状況などを報告し、疑問点などで助言や指導を受け、情報交換を行い、運営推進会議出席時にも助言を受け情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルを整備し事業所内に「身体拘束廃止宣言」を見やすい所に貼り、意識統一を図り、不意の外出予防の為にチャイムで出入りの確認をしています。	外部研修に参加し、全職員に報告して共有し、「身体拘束廃止宣言」を行って身体拘束をしないケアに努めている。余市グループホーム連絡協議会主催による所在不明者捜索訓練を行って、徘徊の状態になった場合の地域との協力関係を築いている。玄関にチャイムを取り付け、防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為の研修会及び集会などの参加を積極的に呼びかけカンファレンス等を通じた社内研修を持つ機会を持って日々のケアに臨んでいる。		

グループホーム延寿園(延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様でご家族様と音信不通だった為ご家族のサポートが得られないといった事例があり町の担当者や地域の青年後見センターの職員に相談し青年後見制度を利用した結果ご家族と連絡を取ることが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時及び医療連携加算などのサービス改定の際はご本人、ご家族に口頭や文書で説明を行い十分に理解頂くよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や入居者様の意見や不満等を聞きやすくする為日頃より信頼関係を構築するよう心がけている、又運営推進会議や家族交流会でご家族の意見を伺ったり意見箱を玄関に設けている。	日常の会話から利用者の要望などの把握に努め、家族等の意見、要望は、面会時や運営推進会議参加時に積極的に会話を交わし、家族交流会では利用者の日々の様子をビデオで見てもらい、情報を提供して意見を聞くように努めている。毎月利用者の生活の様子を家族に知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見交換の場を全体会議、ケアカンファレンス、ユニット合同会議で設けて説明を行っている、又個別に関しても随時意見を聞き運営に反映させている。	職員が意見を言いやすい雰囲気の日頃から作り、日常の会話、フロア会議、全体会議で意見要望を話し合い検討して運営に反映させている。職員意見により日誌を改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員の毎月のシフトチェック等を行っており、職員環境の向上の為必要に応じて職員にアンケートを取る等して給与等に関する意見把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各個人の適正や能力を見極めた上で事業所負担による研修等の参加を提案し常にキャリアアップの機会が得られるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の交流や情報交換を行う為グループホーム連絡協議会の研修や各種勉強会、懇親会等に参加している。		

グループホーム延寿園(延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に事業所の見学、面談を行い、要望など伺い本人が事業所に慣れるまで家族の協力も頂きながら本人の気持ちに添って援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様に家族にも見学、面談などを通して困っている事、事業所へのニーズなどに耳を傾け、当事業所として出来る事等の説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、フェイスシート等の情報をもとにご本人、家族が一番困っている事、必要な事を把握した上で当事業所で出来る事他のサービスを使った場合いなども詳しく説明しながらより良いサービスが提供出来る様に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの出来る事を把握し積極的にお願する事で共同生活していると認識してもらう様に心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担に配慮しながら、可能であれば通院の付き添いや、必要な物の差し入れ、帰宅の想いの強い時等の場合は電話で話しをして頂くのどの協力をしていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葬祭、法事等への参加、友人、親戚の方々への連絡の取次ぎなど、出来る範囲で継続出来る様にしていきます。	散歩、買物、葬祭・法事への参加など馴染みの関係が途切れないよう支援している。知人が訪ねて来た時は、居室でゆっくり話しが出来るようお茶を出すなどして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や認知症の程度などを把握し、家庭的な雰囲気を保ちつつ円満な関係を保てるように声掛け、見守りを行っている。		

グループホーム延寿園(延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もホームに訪れてくれる家族の方が居られ快く対応している。又他所へ移られた入居者様に職員が面会に行く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人や家族の希望を把握し、計画に反映させている。又入居後もコミュニケーションを取り、日々の会話からも意向を聞ける様にしている。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を職員で共有して、希望や意向に添うように努めている。ドライブに行きたい、1階から3階の入居者みんなで歌を歌うなどの利用者の希望が取り入れられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りをし、支援の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が今出来る事を見極め支援する。日々の生活の中で良く観察し個人記録や引継ぎで情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が毎月モニタリングを実施、四ヶ月毎にカンファレンスを行いご本人に今必要なニーズの把握に努めています。又必要時には緊急のカンファレンスを開く事もある。	利用者、家族の意向を反映させ、毎月モニタリングを行い、全体会議を得て短期4ヶ月、長期1年毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変更があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動やケアの実践、結果など個人記録へ記入し情報の共有をし、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにより外出(『買い物、家族への面会)などの機会を設けたりボランティアに來所して頂いての支援もあった(クリスマス会)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人からの希望が余り聞かれないという事もあるが、資源の活用をすることは出来ていないと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方は引き続きかかりつけ医の受診をされているが、夜間、休日でも速やかに対応出来る事を目的に契約している往診医を勧めることもある。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診出来るよう支援している。付き添いは家族が基本とし、希望があれば職員が付き添い状況を医師に説明している。受診結果については、家族に電話又は毎月の利用者の様子で報告している。	

グループホーム延寿園(延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々小さな変化も見逃さず、気づいたことは看護師に報告し入居者様へ適切なケアが出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関関係者との連絡を積極的に行い退院後も戸惑う事のないようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応としてご家族、関係者と話し合い出来るだけ希望に添える様取り組んでいる。	入居時に利用者、家族に「急性期又は重度化した場合の対応指針」に基づき重度化した場合や終末期のあり方について説明している。重度化した場合は利用者、家族の意向を聞きながら医師と連携し、希望に添えるよう努めている。看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内に緊急時のマニュアルを用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアル、緊急連絡網を作成している。年二回避難訓練を行っている。	年2回(昼・夜間想定)、消防署の指導、運営推進会議出席者、地域住民の協力を得て、サービス(昼想定時のみ)、高齢者マンション利用者と合同で避難訓練を実施している。又、町主催の原子力防災訓練に職員が参加している。	・運営推進会議を通じて、地域住民の協力と災害時の分担をあらかじめ依頼しておくことを望む。 ・火災、自然災害(地震、津波など)など災害別一時避難場所を指定し、通信網が破壊された時を予想して、家族等に予め通知することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳のある暮らしを保障する」という理念に沿って、ご本人の立場に立った対応を心がけている。	事業所理念に「穏やかで、楽しい尊厳のある生活」を明記して、本人の気持ちを大切に、言葉づかいに気をつけてプライバシーや尊厳を損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し医療面やご家族の意向など本人の意向に添えない場合でも極力ご本人に納得していただけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などを考慮し、無理の無い様、ご本人様の意向に沿った時間の過ごし方が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを配慮しつつ、外出時に着替えを促したり、2ヶ月に1度美容師の訪問を利用しカットしてもらっている。		

グループホーム延寿園(延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの職員も入居者様と同じ食事を食べ会話をしたり片付けも出来る範囲で一緒にいき、皮むきを一緒にしたり、茶碗拭きやテーブル拭きなども行い食事時間を共有しています。	調理担当職員が利用者の希望を入れて献立を作成し、利用者は、能力に応じ職員と一緒にジャガイモの皮むき、茶碗拭きなどを行っている。誕生会、彼岸、正月などには行事食を作り、季節に合わせ魚、果物などが食卓を飾り職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量等記録し、体調や持病によって塩分やカロリーの制限をし適切な量で援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔洗浄を必ず行い必要に応じて歯科受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄 チェック表を参考にし、時間を見極めトイレへ誘導するなど自立排泄の機会を増やすよう働きかけて衛生品の使用開始時は家族に了解を得てからとしている。	排泄チェック表、表情、態度などから把握し、適時にさりげなくトイレへ誘導し、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師や医療機関と相談して下剤の調節などを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声を掛けたり、入浴自体を拒みがちな方は入浴日で無くても声掛けし無理の無いように配慮して週2回を目安に支援しています。	週2回の入浴を基本に、入浴剤を使用して入浴が楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、時間を変えたり、日を変えるなどして声掛けに工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者さんの体調などを考慮しゆっくりと休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルしいつでも確認出来るようにし服薬時は職員が介助、見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんの気持を考慮しながら出来るだけ行事に参加して頂き又、出来るような仕事をお願いしている。		

グループホーム延寿園(延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得てご本人の希望に添った外出支援をしている。又近所に散歩や買い物、ドライブなどして日常的に外出できる機会を多くしている。	散歩、買物、花見、紅葉狩り、ぶどう狩り、ドライブなどの外出支援を行って日常の生活に潤いに変化のある生活を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事業所で管理している。希望がある際は所持したり使う事が出来る様支援している。買い物の同行や代行もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話を掛けられるようご家族の協力を得て支援している。希望がある際は手紙にて写真を送ったり代筆の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室には季節応じての飾りを入居者様と製作し飾っている。ご本人の希望があれば、完成した塗り絵なども飾り他入居者にも見ていただいている。	居間・食堂は一体的で、日当たりが良く明るい。ファンヒーターが設置され、加湿器を置いて湿度調整し、不足分は洗濯物で行っているため、より家庭的な雰囲気である。長いローカは歩行訓練の場所として利用している。利用者は、テレビを見たり、職員と一緒にゲームや歌を唄ったりして思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々の性格や趣味、嗜好等に配慮し席の配置をしている。テレビを見たり本を読んだり気の合った入居者様が会話を楽しむなど思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい居住空間になる様馴染みのある家具を置いたり、大切な物は目線に入る位置に置き居心地良く過ごせるよう工夫している。	窓からの日差しが明るく暖かい。使い慣れた家具、テレビ、ベッドなどを持ち込み、壁には、世界で一つの毎月自分で作った塗り絵のカレンダー、家族との写真などを飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行で安全に移動出来る様に廊下、トイレに手摺を配置している。張り紙をしたり入居者が分かる様に工夫している。		